化学物質等安全データシート（ＭＳＤＳ）

1. 化学物質および会社情報

GHS の製品特定	**PARA-NONYLPHENOL TECHNICAL GRADE**
製品コード	該当しない
版番号	37
発行日	10-21-2011
発行日	07-31-2013
更新年月日	11-10-2011
化学名	パラグラフ-ノニルフェノール (CAS # 84852-15-3)
推奨される用途	化学中間体
推奨される制限	データなし。
別名	ノニルフェノール * パラグラフ-ノニルフェノール, 分枝型
製造者情報	SI Group® P.O. Box 1046 Schenectady, NY 12301 US sds.info@siigroup.com General 518-887-2400 EMERGENCY: USA -- CHEMTREC 1-(800)-424-9300; International [Call Collect] +1 (703)-527-3887
その他の情報	本生成物は 米国 EPA TSCA 在庫に記載されています。

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	区分外。	
健康に対する有害性	急性毒性　経口	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分1C
	生殖毒性	区分2
環境に対する有害性	水生環境有害性（長期的有害性）	区分1

GHSラベル要素

注意喚起語　危険

危険有害性情報	飲み込むと有害（経口）。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷。 生殖能への悪影響のおそれの疑い。 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性。
防止	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 粉じんまたはミストを吸入しないこと。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 取扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。
応急措置	暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。 飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。 眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 皮膚（又は髪）に付着した場合： 汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 汚染された衣服は、洗濯した後に再使用する。 漏出物を回収すること。
保管	施錠して保管すること。 地域の規則に従い保存する。
廃棄	内容物 / 容器の廃棄は地域の規則に従い行う。
火災時の特有の危険有害性	飲み込むと有害のおそれ（経口）。 眼、皮膚、胃腸管や呼吸器系の刺激や熱傷につながる恐れがあります。 生殖機能を損なうリスクの可能性がある。 胎児に害を及ぼすリスクの可能性がある。 水生生物に対して非常に有毒であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある。 長期にわたる暴露により慢性影響をうけることがある。

3. 組成、成分情報

成分	CAS番号	含有量
パラグラフ-ノニルフェノール	84852-15-3	90 - 100

4. 応急措置

応急処置

目
直ちに多量の流水で最低15分間眼を洗浄する。 コンタクトレンズをしていて容易に取り外せる場合は取り外す。 その後も洗浄を続けること。 症状が現れたら医師の手当を受ける。

皮膚
汚染された衣類や靴を脱いで隔離すること。 温水と石けんで洗い流す。 皮膚に少量付着した場合、影響を受けていない皮膚に物質が広がるのを防止すること。 刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。

吸入
空気の新鮮な場所に移動する。 呼吸が困難な時は酸素が必要になることがある。 一方弁を備えたポケットマスクまたはその他の適切な呼吸医療機器を用いて人工呼吸を誘発する。 被災者が本物質を吸引した場合は口うつし人工呼吸を行ってはならない。 症状が現れたら医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。 意識がないまたは痙攣している被災者の口から、物を絶対に与えないでください。 飲み込んだ場合、水で口内を洗う（その人の意識がある場合のみ）こと。 医師の指示なしに無理に吐かせないこと。 もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。

医師に対する特別な注意事項
息切れする場合は、酸素吸をする。 被災者を保温する。 被災者の観察を続ける。 症状は遅れて出てくることがある。 個別の解毒剤は知られていない。

一般的アドバイス
直ちに汚染された衣服と靴を脱ぐ。 事故の場合や、気分がすぐれないときは医療処置についてアドバイスを求める。（可能ならばラベルを見せる）息切れする場合は、酸素吸をする。 被災者を保温する。 被災者の観察を続ける。 医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。

5. 火災時の措置

引火特性
熱により容器が爆発することがある。 下水道への流出は火災や爆発の原因となる可能性がある。

消火剤

適当な消火剤
水噴霧。 泡消火剤。 粉末消火剤。 二酸化炭素（CO2）。

適合ではない消火媒質
消火に水噴射をしない。これは火災を拡散することになる。

消火を行う者の保護

化学物質による特別な危険有害性
火災により刺激性、腐食性および/または有毒なガスが発生する恐れがある。

消防士のための保護設備および予防措置
消防士は、防火衣、フェースシールド付きヘルメット、手袋、ゴムブーツを含む標準的な防護衣を着用しなくてはならない。密閉された場所では、自給式呼吸器（SCBA）も使用する。 建築物の消防士が使用する防護服では保護効果は限定される。

消火設備／指導
火災や爆発の場合、フュームを吸入してはならない。 タンク、貨車、タンクローリが火災に巻き込まれた場合は、全方位に対し800メートル（1/2マイル）の隔離を行う；同時に全方位に対し800メートル（1/2マイル）の初期避難を検討する。 貨物保管区域の大規模な火災に対してはできれば無人のホース保持機または遠隔操作ノズルを使用する。 もしそれができなければ避難して火が燃え尽きるまで待機する。 火災の場合は、散水によりタンクを冷却する。 炎に巻き込まれたタンクからは常に退避すること。 容器の安全通気孔からの音が高くなったり火によってタンクに変色が見られるときは直ちに避難する。 危険でなければ、火災区域から容器を移動させる。 消防士は、防火衣、フェースシールド付きヘルメット、手袋、ゴムブーツを含む標準的な防護衣を着用しなくてはならない。密閉された場所では、自給式呼吸器（SCBA）も使用する。 蒸気は空気より重く、離れた発火源や逆火に地面を通じて到達する恐れがあります。

爆発のデータ

静電放電に対する感受性
静電気放電による発火を回避するには、装置の金属部分はすべて接地します。 付加的な推薦のために、適当な指針にのような相談しなさいNational Fire Protection Association [NFPA] 77, "Recommended Practices on Static Electricity"およびAPI RP "Recommended Practice 2003, Protection Against Ignitions Arising out of Static, Lightning, and Stray Currents" (2008). 注意：爆発下限 - 0.5- 1.0% [有機液体].

特定の消火方法
火災や爆発の場合は、煙霧を吸い込まない。 火炎にさらされた容器は消火が完了した後もしばらく水で冷却する。

危険な燃焼物質
火災時には、刺激性の及び有毒ガスあるいは煙霧が放出される恐れがあります。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項
こぼれやもれが起きている場所から関係者以外を遠ざけ、風上に避難させる。 蒸気およびスプレーミストの吸入を避ける。 低い場所に保管してはならない。 適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器または流出物に触らない。 閉鎖された場所に入るときは事前に換気を行う。 工場／企業の緊急対策計画に従うこと。

環境に対する注意事項

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。 引火源を除去すること。 汚染されたところは換気を行ってください。 広範囲に広まるのを防ぐ（防止手段：隔離、オイル・バリアの使用等）。 水路、下水道、地下または密閉された場所へ流入を防ぐ。 流出または放出事故が起きた場合、すべての適用法令に従って関連当局に通知する。

封じ込めの手段

すべての着火源を取り除く（その場での喫煙、炎、スパークまたは火炎は禁止）。 リスクを伴わずに可能なら、物質の流れを遮断する。 可能な場合は漏出物をせき止める。 水路、下水道、地下または密閉された場所へ流入を防ぐ。 この物質は清浄水法で水質汚濁物質に分類されており、土への汚染または、水路を通じて下水や排水システムに侵入することを防ぐ必要がある。 流出または放出事故が起きた場合、すべての適用法令に従って関連当局に通知する。

除去方法

汚染されたところは換気を行ってください。 電気、静電気または摩擦による火花の発生源を含む発火源を排除すること。 清掃中は適切な保護具および防護服を着用する。

大量の漏出： 後に処分するために流出物の前方に土手を築く。

少量の漏出： 吸収材（例：布、フリース）で拭き取る。 環境に関する規制に従い、汚染された床および物質を完全にきれいにする。

絶対に流出物を元の容器に回収して再使用してはならない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

裸火、熱源または発火源の近くで、取り扱ったり、保管したり、開けてはいけない。直射日光に当てないようにする。 製品を取り扱う時に使用するすべての道具は、接地しておく必要がある。 正しい産業衛生と安全規定に従って取扱います。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 当材料を目に接触させないで下さい。 本物質を皮膚に接触させない。 本物質を衣服に接触させない。 保護具を着用する。 適切な換気がない場所では使用しない。 長時間の接触を避ける。 取扱い後はよく洗うこと。 ″空っぽである″ 容器は(液体あるいは気態の)製品の残り物を保存して、しかも危険な物質でも保存できる。 空の容器を再使用しない。 スパークの危険有害性の代表例であり、従って火災の有害危険性の代表例でもある保存、混合、フィルター処理、またはポンプ輸送を含む処理作業中に、有機物は静電気を帯びる可能性がある。さらに、この種の物質が保存装置または処理装置から、特に高温および/または高圧で突然放出された場合には、目に見える着火源が無くても静電気による引火を招く可能性がある。標準試験条件で得られた引火点および自己発火の値は異なる状態には適用できないため、任意の処理におけるこの物質の安全な使用法については、保管・処理条件とこの物質の両方に精通した者が再検討を行うべきである。注意：静電気を蓄積する物質には、このような高い電位差が発生しているおそれがあり、このような状態は、有機蒸気の引火を引き起こす可能性のあるスパークのような放電の原因となるおそれがある。このような放電は、絶縁導体（プラント用品、ドラム）、バルク液体、ミストおよび絶縁プラスチック材料から発生する可能性がある。

保管

取扱い/保管は慎重に行うこと。 密封容器内の圧力は、熱の影響で上昇する可能性がある。 熱や発火源から遠ざける。 本物質は静電荷を蓄積し、火花や発火源を引き起こす恐れがある。 一般的な接続及び接地技術を使って、静電荷の蓄積を防止する。 換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉しておくこと。

8. 暴露防止及び保護措置

暴露ガイドライン

すべて保護具の使用は、有資格者によって決定されるためです。

工事制御

特に、閉所では十分な換気の確保が必要。 充分な換気を行い、取扱いおよび熱処理中に発生する恐れのある蒸気、粉塵、フュームを効果的に除去して蓄積を防止すること。適切な電気的安全策を確実に遵守するため、適切な基準を参照しなければならない。このような基準には、例えば米国消防協会（NFPA）70、「産業機械用電気規格」、およびNFPA 499、「化学プロセス区域内の電気装置に関する可燃性粉塵および危険有害性（に分類される）場所の推奨分類法」のようなガイドラインが含まれる。注意：この物質の蒸気、粉塵、フュームは空中で爆発性混合物を形成する可能性があるため、爆発の可能性がある全ての場所は、起こり得る損害を最小限にするように設計しなければならい。このような爆発および付随する損害を防止するため、NFPA 69、「爆発防止システム基準」および/またはNFPA 68、「爆燃換気ガイド」等、適用可能なガイドラインを参照すること。

保護具

眼/顔面の保護

眼に入らないようにする。 サイドシールドのついた安全眼鏡（またはゴーグル）を着用する。 飛散が起こりそうな場合に着用： 顔面シールド. 洗眼装置の使用を推奨する。

皮膚の保護具

本物質を皮膚に接触させない。 適切な保護衣を着用する。

呼吸器の保護具

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 空気中の濃度を推奨曝露限界（適用できる場所で）、または許容レベル（曝露限界が確立していない国）を工学技術管理が下回らない場合、推奨マスクを着用しなければならない。 何らかの制御不能の放出の可能性が有る場合、暴露レベルが不明である場合、あるいはろ過式呼吸用保護具では十分な保護効果が得られないその他の何らかの状況が存在する場合は、陽圧送気マスクを使用する。

全般的な衛生に関する検討

眼、皮膚、衣服に付けないこと。 取扱い後と食事前に手を洗うこと。 正しい産業衛生と安全規定に従って取扱う。

9. 物理的及び化学的性質

外観

無色ゆとり液体を黄色にするため。

物質の状態

液体.

形状

液体.

色

無色ないし淡黄色。

臭い	特徴的。
臭いの閾値	データなし。
pH	データなし。
蒸気圧	5 mm Hg 154° Cで
蒸気密度	7.59［空気=1.0
沸点	285 ° C（545 ° F）
融点・凝固点	-10 ° C（14 ° F）
水溶性	ほぼ不溶［<1%］
比重（相対密度）	0.95
比重	データなし。
引火点	> 94.00 ° C（> 201.20 ° F）
燃焼上限界（空気中、vol%）	データなし。
燃焼下限界（空気中、vol%）	データなし。
自然発火温度（発火点）	データなし。
蒸発速度	<エーテル
粘度	563 cs 20° Cで
n-オクタノール／水分配係数	4.8
分子量	220.39
分子式	C15-H24-O
その他のデータ	
臨界温度	470 ° C（878 ° F）
引火点クラス	可燃性 IIIB

10. 安定性及び反応性

化学安定度	データなし。
危険有害反応可能性	危険有害性の重合は発生しない。
避けるべき条件	加熱、スパーク、裸火、その他の発火源を避ける。
混触危険物質	酸化剤とは混触禁止。
危険有害な分解生成物	本生成物は分解後、一酸化炭素、二酸化炭素及び / または低分子量の炭化水素を放出します。

11. 有害性情報

有害性情報 眼、皮膚、胃腸管や呼吸器系の刺激や熱傷につながる恐れがあります。

有害性データ

成分	試験結果	
パラグラフ-ノニルフェノール（84852-15-3）	急性の 経口 LD50 ラット: 1300 mg/kg	E
	急性の 経皮 LD50 ウサギ: 3160 mg/kg	E

暴露の主経路	吸収 眼との接触。 皮膚との接触。 飲み込んだ場合。 吸入。
急性影響	飲み込むと有害（経口）。 眼、皮膚、胃腸管や呼吸器系の刺激や熱傷につながる恐れがあります。
成分分析 - LD50	毒性、環境毒性、物理および化学的性質はまだ十分に研究されていない可能性がある。上述の有害なデータは、
感作性	過敏な人では感作が起こることが・ります。
局所効果	眼、皮膚、胃腸管や呼吸器系の刺激や熱傷につながる恐れがあります。
慢性の効果	長期にわたる暴露により慢性影響をうけることがある。 生殖に影響を与えることがある。
発がん性	分類基準に該当しない。
神経障害	本生成物のデータはありません。
催奇形性	本生成物のデータはありません。
症状	眼、皮膚、胃腸管や呼吸器系の刺激や熱傷につながる恐れがあります。
疫学	本製品に関する疫学的データはない。
皮膚腐食性/刺激性	腐食作用。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	強い眼刺激。 眼に重度の障害を与えるリスクがある。
その他の情報	この物質の毒物学的特性は十分に研究されておらず、取り扱いや使用が有害な場合がある。

12. 環境影響情報

生態毒性 環境に対して有害な影響を及ぼす危険のある物質を含有している。

環境影響データ

成分		種	試験結果
パラグラフ-ノニルフェノール (84852-15-3)			
甲殻類	EC50	ミジンコ	0.035 mg/l, 48 時間
藻	LC50	藻	0.0563 mg/l, 72 時間
水生			
魚類	LC50	ニジマス (Oncorhynchus mykiss)	0.14 - 0.23 mg/l, 96 時間
		ファットヘッドミノウ（ピメンファレスプロメラス)	0.1383 mg/l, 96 時間

環境への影響 職業上の規則に反した取り扱い、処理が行われた場合は、環境に及ぼす危険性を除外して考えることはできない。

残留性/分解性 生分解性 (78% 後 28 日間) (OECD 301 B)

生体内蓄積の可能性

オクタノール／水分配係数 logKow

パラグラフ-ノニルフェノール	4.8

土壌中の移動性 この製品は基本的に水に溶解しない。

その他の悪影響 データなし。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 適用され規則に準拠して廃棄しなければならない。

14. 輸送上の注意

代表 IMDGに定める海洋汚染物質。

陸送/鉄道輸送 (TDG)

バラ包装 -- タンク/貨車

出荷名	アルキルフェノール、液体、その他特に指定なし
国連分類	8
ID番号	UN3145
容器等級	PG III
海洋汚染物質	海洋汚染物 (パラグラフ-ノニルフェノール)

ドラム/バッグ

出荷名	アルキルフェノール、液体、その他特に指定なし
国連分類	8
ID番号	UN3145
容器等級	PG III

IBC容器

出荷名	アルキルフェノール、液体、その他特に指定なし
国連分類	8
ID番号	UN3145
容器等級	PG III
海洋汚染物質	海洋汚染物 (パラグラフ-ノニルフェノール)

バケツ

出荷名	アルキルフェノール、液体、その他特に指定なし
国連分類	8
ID番号	UN3145
容器等級	PG III

BRAZIL -- DRUM

出荷名	アルキルフェノール、液体、その他特に指定なし
国連分類	8
ID番号	UN3145
容器等級	PG III

陸送/鉄道輸送 (TDG)

BRAZIL -- PAIL

出荷名	アルキルフェノール、液体 、その他特に指定なし
国連分類	8
ID番号	UN3145
容器等級	PG III

15. 適用法令

米国連邦法規

この製品はOSHA危険有害性の周知基準、29 CFR 1910.1200に定められた「危険化学薬品」である。

Superfund 修正案及び再度審査許可法 1986(SARA)

危険有害性カテゴリー	即刻危険 - はい 遅延障害 - はい 火災危険物 - なし 圧力の危険 - なし 反応性危険物 - なし
第302 章節、極めて危険な物質	なし
第311章節、危険化学薬品	はい

国家の法規

本製品には、カリフォルニア州でがん、先天性異常、その他の生殖器障害の原因となるとことが知られている化学物質は含まれていない。

16. その他の情報

詳しい情報

HMIS®は米国ペンキおよびコーティング協会(NPCA)の登録商標またはサービスマークである。

HMIS® レベル	健康: 3* 可燃性: 1 物理的危害要因: 0 取扱者の保護: C
国家防火協会 (NFPA) の等級	健康: 3 可燃性: 1 不安定: 0
発行日	07-31-2013
このデータシートは次の番号のセクションの前のバージョンからの変更を含んでいる：	本MSDSは大幅に変更されたため、改めて全文をお読みください。